

科目名	教育臨床学特講	担当者	イノウエ 井上 マサヒコ 雅彦	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講義では子どもや若者を取りまく様々な心理的・行動的な問題について、認知療法、認知行動療法、行動分析学という理論と手法を体験的に学んでいただくことで、その問題を分析し、教育に生かす力を身につけることを目標としています。</p>		
到達目標	<p>不安やストレスを定義できる          認知療法・認知行動療法に対する基礎的理解と技能の習得          行動分析学の理論を理解し日常場面の行動を分析できる          教育の中で生じる問題について行動的な心理学を解決方法を立案できる</p>		
学修方法	<p>臨床心理学の初学者のために、前期後期の各前半部分の課題では認知療法・認知行動療法のワークを実際に実践し、認知・行動理論に基づいた分析の仕方を学習します。後半部分ではそのワークの基礎となる行動理論と治療例を学んでいただくとともに、学校教育のみならず、社会の中での様々な問題に対する教育臨床的アプローチの可能性とその課題について考察していきます。</p> <p>前後半とも、レポート課題1では基礎理論を学び、実際にワークを行い、それに基づいて考察していただきます。ワークについてはレポート本文とともに提出していただきます。</p> <p>レポート課題2では、教育場面における諸問題について認知療法、認知行動療法、行動分析の観点から問題の分析と解決方法について立案し、考察していただければと思います。</p>		
スケジュール	<p>前期（基本教材1 レポート課題1, 2）に関しては最低でも8月31日までには第1回目のレポートを提出すること、提出期限（9月中旬）までにコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること。</p> <p>後期（基本教材2 レポート課題1, 2）に関しては最低でも12月末日までには第1回目のレポートを提出すること、提出期限（1月中旬）までにはコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること。ただし、やり取りは複数回となる可能性もあるため、コメントに十分に対応するためには前後期とも第1回目の提出は締め切りより早いほうが望ましい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	問題点が論理的かつ認知・行動理論に基づいて整理されているか、専門用語を正しく使用して説明されているか、参考図書・他の論文などを引用して考察されているかという観点から評価する
	平常評価	40%	教材1, 2のレポート課題1のワークに対する実践とその内容について評価する
履修者への要望	<p>実施したワークをレポートとともにPDFもしくはワードファイルにて添付してください</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>(1) 著者名： 竹田伸也 教材名： 『認知療法トレーニング・ブック』（遠見書房，2012年） ISBN:978-4-90-453642-1 1,000円+税</p> <p>(2) 著者名： 竹田伸也 教材名： 『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』（遠見書房，2012年）ISBN:978-4-90-453643-8 1,800円+税</p> <p>認知療法は対象者の認知や行動に焦点をあて、それらの変容を通して問題解決を図る心理療法であり、うつ、不安障害、ストレス関連障害などの効果が示されてきています。また、予防的アプローチとしても教育や労働領域にも応用が期待されています。(1)が認知療法のワークブック、(2)が理論的解説書となっていますので両方を購入してください。</p>
参考図書	<p>奥山真紀子 他『こどものうつハンドブック』（診断と治療社，2007年）ISBN:978-4-78-781479-1 2,800円+税</p> <p>斉藤万比古『発達障害が引き起こす不登校へのケアとサポート』（学研，2011年）ISBN:978-4-05-405026-6 2,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>教材は心理療法に学習者自らが体験的に取り組みながら学習することを目標としています。二冊とも読んで頂き、トレーニングワークを実際にやってみることで認知療法の理解を深めることができます。参考図書は「心理療法」を教育にどう生かすか考える材料にしてください。</p>
レポート課題 1	<p>「見つけ直し日記」と「行動実験ワークシート」をやってみて、うまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。</p> <p><b>留意点：</b>理由についての考察は、教材(2)の認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。見つけ直し日記とワークシートはレポートに添付することを原則とします。</p>
レポート課題 2	<p>参考図書などを参照し、子どもを取り巻くどのような社会的問題に対して、レポート課題1のような認知療法はどのように貢献できるであろうか。具体例を考えて論じてください</p> <p><b>留意点：</b>取り組むべき問題の背景と実態を具体的にあげ、どのように応用できるのか、あるいは困難であるとすればどのようにすれば応用可能なのかという視点から論じてください</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>(1) 著者名： ポール・スタラード著／下山晴彦訳 教材名： 『子どもと若者のための認知行動療法ワークブック』（金剛出版，2006年） ISBN:978-4-77-240927-8 2,600円+税</p> <p>(2) 著者名： ユーナス・ランメロ他著／松見淳子監訳 教材名： 『臨床行動分析のABC』（日本評論社，2009年）ISBN:978-4-53-598300-7 3,300円+税</p> <p>認知行動療法は、多くの精神障害について科学的にその治療効果が実証されたものであり、我が国でもその普及が望まれています。(1)は認知行動療法を子どもや若者に適用するためのテキストとなっています。(2)は認知行動療法の基礎になる行動分析の理論を基礎から解説し、臨床にどう生かされているかを解説した本です。実践に興味を持ちこれからさらに臨床心理学を深く学んでいく方のためのテキストです。</p>
参考図書	<p>ポール・スタラード著／下山晴彦訳『子どもと若者のための認知行動療法ガイドブック』（金剛出版，2008年）ISBN:978-4-77-241034-2 2,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>前半の講義で学んだことを発展させ認知行動療法の理論を学びワークを体験すること（ワークブック）により、こころと行動の問題とその解決について学習し考察することを目的としています。</p>
レポート課題 1	<p>教材(1)のワークブックにあるワークのいくつかを自ら実施してみて、それに関してうまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。</p> <p><b>留意点：</b>一つではなく複数ワークを行うようにしてください。理由についての考察は、認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。ワークに使用したシートはレポートに添付することを原則とします。</p>
レポート課題 2	<p>教材(2)を熟読し、自分が普段接している社会的問題を行動理論的にABC分析し、解決策について論じてください。</p> <p><b>留意点：</b>序論、問題となる行動とその背景、ABC分析、解決方略という章立てで執筆してください。</p>